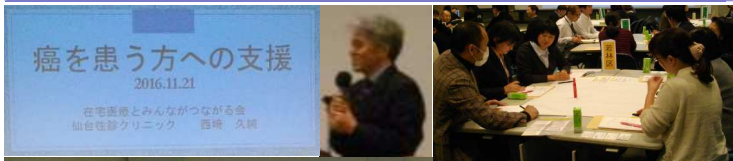
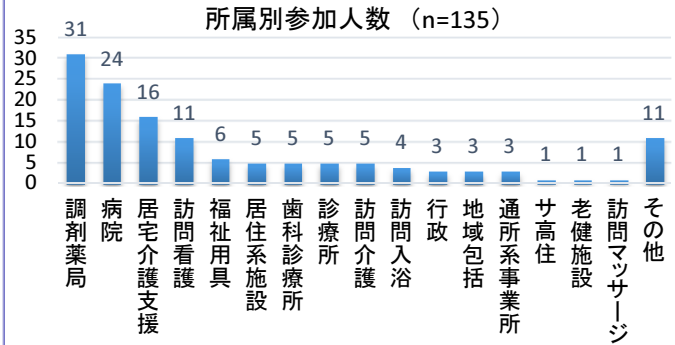


第11回 在宅医療とみんながつながる会

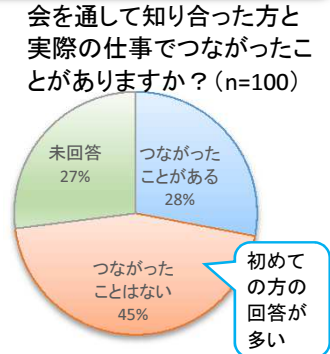
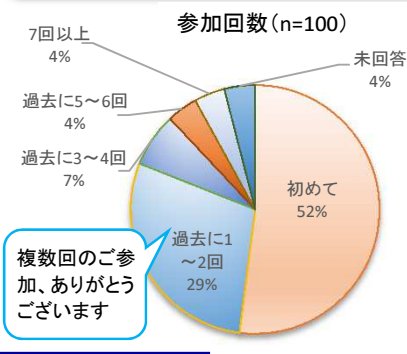
と報告

開催日時:平成28年11月21日(月) 18:45~20:45 会場:フォレスト仙台 フォレストホール

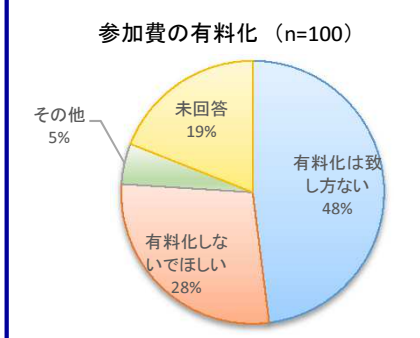
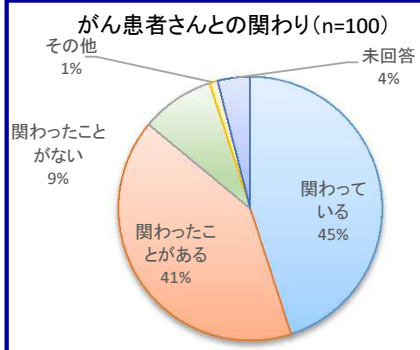
内容
【開会の挨拶】
 セコム仙台訪問看護ステーション 所長 武田 伸恵 様
【講演】
「がんを患う方への支援」
 仙台往診クリニック 医療部長 西崎 久純
【情報提供】 つながりラインのご紹介 事務局
【情報交換】 「がんを患う方への支援、あなたならどうする？」
【閉会の挨拶】 仙台往診クリニック 研究部 次長 遠藤 美紀



在宅医療とみんながつながる会では、①顔が見えてつながる場、②人の資源を知る場、③自由に話せる場を提供しています。今回は、「がん」をテーマに、在宅で過ごすがん患者様への関わりについて、西崎医師より講演いただきました。



当日アンケート結果



~頂いたご意見~
 ★スポンサーをつけては？
 ★行政の支援を得ては？

講演の感想
 がんの介護することが難しくもあり、単純でもあったと感じた。自分もがんの親を見た経験を活かしたい。(ケアマネ)
 「共感すること」簡単なことではありますが、全利用者様にはできていないかと考えるとできていなかったと感じました。再度支援を見直していきたいと思いました。(ケアマネ)
 在宅医療の重要性を感じた。(医師)
 傾聴、共感の心が必須(歯科医師)
 がん患者様への対応を振り返る機会になりました。(看護職)
 在宅で見ていくことは、とても大変で家族の協力も重要となるし、また、いろいろな職種が関わり総合的に支援していけることが大切だと感じた。(看護職)

情報交換を通して感じたこと
 痛み以外の部分で、その方ひとりひとりを広く理解するケアの重要性を感じた。(リハ職)
 各職種、それぞれの悩みがある。もう少し気軽に情報交換できるラインがほしいと意見があった。(ケアマネ)
 色々な職種の目線で関わる事で、できるケアも増えるのではないかと感じました。(薬剤師)
 様々な方とお話ができて、新鮮でした。(看護職)
 在宅にもどってから他職種の連携は、各々対応時間が違うため、難しいということがわかった。病院を退院すると、患者さんのその後の生活が見えないことが多くあります。病院の看護師が在宅の視点を持てるよう病棟看護師もこのような会に参加することをすすめていきたいと思う。(看護職)

まずは、一人の人間と一人の人間のかかわりとして共感を大切にしたい。職能を發揮したいと感じました。(薬剤師)
 ついつい共感していないことに気付かされた。(薬剤師)
 こころのケア、家族へのケアの難しさを改めて感じた。(介護職)
 共感できる部分もそうでない部分もあり、良い意味で自分の中で考えていくテーマができた。(介護職)
 ”質問されているのは答えを求めている場合だけではない”ことをこれからも心に留めておきたい。(相談職)
 共感難しい。だけど寄り添いながら本人の状況に合わせた最善を考えたい。(相談職)
 今後つながるかもしれない機会に恵まれてとても良かった。(看護職)
 こんなカンファレンスが実際にできたらどんなに良いかと思いました。(ケアマネ)
 職種ごとの体験、工夫、悩みを共感することができた。今後は、その職種間でどう個別事例でつながっていけるかが課題。(看護職)

<事務局より>

たくさんのご意見ご感想をありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。次年度以降も開催する際は、ご案内を差し上げます！この機会に是非「つながりライン」へ登録ください(個人でも登録可能です)。よろしくお願い致します。